

# プログラム：PDCAサイクルに基づく医療の質の改善 埼玉病院でPDCA実習を行いました

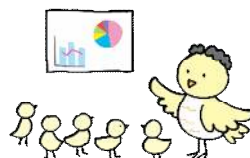
本養成講座には、「PDCAサイクルに基づく医療の質改善」という実習プログラムがあります。このプログラムには病院実習が組み込まれており、国立病院機構埼玉病院で実習をしました。



病院長：関塚永一先生

## 【見学実習概要】

- ▶日時：6月30日（木）14:00～
- ▶場所：国立病院機構埼玉病院
- ▶実習内容：
  - 14:00-15:00：院長による病院ガバナンスに関する講義
  - 15:00-17:00：医療の質の内部監査の見学
- ▶参加者：本養成講受講生とOB、本学関係者



## 【病院長による院内ガバナンスに関する講義】

埼玉病院は、2012年にISO9001マネジメントシステム、2014年にISO22301事業継続マネジメントシステムならびにISO50001エネルギーマネジメントシステムの承認登録を受けており、医療の質の組織的な取り組みが確立されている病院でした。院内全体の質の改善は、医療の質、患者安全、職員満足、経営・財務の視点で取り組まれており、「比較的短期間のPDCAサイクルをまわし続けていくことが大事」、「情報は全てトップに上げる。権限が違えばアイデアが違うから」、「絶対に赤字は出さない」、「職員家族主義、患者さん家族主義、地域家族主義を理念に考えると全てが解決する」など、病院長として必要なガバナンスに関するお話がありました。

## 【医療の質内部監査の見学】

この日は、2つの病棟の内部監査の見学をしました。監査項目「与薬ルールが遵守されているか」、「災害発生時の役割」等でした。医師が中心となって、監査する側とされる側の病棟から医師、看護師、薬剤師等の関係職種の職員により、監査会が運営されていました。事前に監査する側の担当者が監査される側の病棟（該当部署）に監査項目に関するチェックをしており、その結果も踏まえて改善策について議論されていました。監査会の最後に「改善のABC」を決定し、次につなげるという形で進められていました。「改善のABC」とは、Aが「A:1ヶ月以内に改善」、「B:1ヶ月以内に計画、半年以内に改善」、「C:改善課題」となっており、できるだけ期限を決めて改善活動を行う仕組みが構築されていました。

「監査」と聞いて大変堅苦しい印象を受けましたが、監査する側も同じ病棟のスタッフであることから、医療現場における難しい局面を分かった上でより良くしていくための案を出し合っているといった印象で、建設的なディスカッションが行われていました。厳しい指摘や議論がある一方で、内部監査はギズギズせず、最終的にはよい所を褒める形で終わるという院長の方針が示されていました。医師をはじめ医療に関わる全ての職種がこのような場で改善活動を実施している、病院のマネジメントの1つのあり方を学ぶとてもよい機会となりました。

## 【院長とのディスカッション】

今回の実習は受講生・OB・本学関係者の計11名が参加しました（医師2名、薬剤師1名、看護師7名、診療情報管理士1名）。病院運営に関わる者が多いため、病院組織のマネジメントの具体的な例、近隣医療機関や行政との連携などについて活発な議論が行われました。



病院長とのディスカッション風景



内部監査でのディスカッション風景